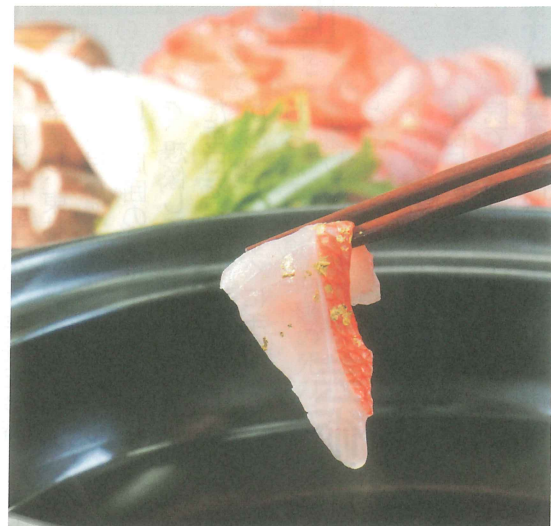


糸永 「黄金」というと。

倉橋 食べられる金箔を使っています。見栄えもいいですし、贈答用にたくさん買っていたいです。

糸永 「贅沢至高」と



受賞したキンメダイの黄金しゃぶしゃぶ



ハモの黄金しゃぶしゃぶ



返礼品に採用されている「瀬戸の真鯛」の調理例

糸永 ありがとうございます。今回は未来の目的地についてお聞きします。

【第4回放送分】

糸永 マンスリーゲストは今回が最終回になります。クラハシのこれから目的地について伺っていきます。

その前におめでたい話から。(食のプロによる食品審査制度)「ジャパン・フード・セレクション」でのグランプリ受賞、おめでどうございます。詳しい話を聞かせてください。

倉橋 私どもがEC(電子取引)サイトとして立ち上げました「贅沢至高」に掲載している商品のうち、キンメダイとハモの「黄金しゃぶしゃぶ」が受賞しました。だしと素材と鮮度にこだわった商品をそろえているんですが、推薦があつてエントリーさせていただいた結果、(キンメダイとハモ)両方で最高賞を頂くことができました。

糸永 「黄金」というと。

倉橋 食べられる金箔を使っています。見栄えもいいですし、贈答用にたくさん買っていたいです。

糸永 「贅沢至高」と

糸永 ありがとうございます。今回は未来の目的地についてお聞きします。

【第4回放送分】

糸永 マンスリーゲストは今回が最終回になります。クラハシのこれから目的地について伺っていきます。

その前におめでたい話から。(食のプロによる食品審査制度)「ジャパン・フード・セレクション」でのグランプリ受賞、おめでどうございます。詳しい話を聞かせてください。

倉橋 私どもがEC(電子取引)サイトとして立ち上げました「贅沢至高」に掲載している商品のうち、キンメダイとハモの「黄金しゃぶしゃぶ」が受賞しました。だしと素材と鮮度にこだわった商品をそろえているんですが、推薦があつてエントリーさせていただいた結果、(キンメダイとハモ)両方で最高賞を頂くことができました。

糸永 「黄金」というと。

倉橋 食べられる金箔を使っています。見栄えもいいですし、贈答用にたくさん買っていたいです。

糸永 「贅沢至高」と

糸永 ありがとうございます。今回は未来の目的地についてお聞きします。

【第4回放送分】

糸永 マンスリーゲストは今回が最終回になります。クラハシのこれから目的地について伺っていきます。

その前におめでたい話から。(食のプロによる食品審査制度)「ジャパン・フード・セレクション」でのグランプリ受賞、おめでどうございます。詳しい話を聞かせてください。

倉橋 私どもがEC(電子取引)サイトとして立ち上げました「贅沢至高」に掲載している商品のうち、キンメダイとハモの「黄金しゃぶしゃぶ」が受賞しました。だしと素材と鮮度にこだわった商品をそろえているんですが、推薦があつてエントリーさせていただいた結果、(キンメダイとハモ)両方で最高賞を頂くことができました。

糸永 「黄金」というと。

倉橋 食べられる金箔を使っています。見栄えもいいですし、贈答用にたくさん買っていたいです。

糸永 「贅沢至高」と

糸永 ありがとうございます。今回は未来の目的地についてお聞きします。

【第4回放送分】

糸永 マンスリーゲストは今回が最終回になります。クラハシのこれから目的地について伺っていきます。

その前におめでたい話から。(食のプロによる食品審査制度)「ジャパン・フード・セレクション」でのグランプリ受賞、おめでどうございます。詳しい話を聞かせてください。

倉橋 私どもがEC(電子取引)サイトとして立ち上げました「贅沢至高」に掲載している商品のうち、キンメダイとハモの「黄金しゃぶしゃぶ」が受賞しました。だしと素材と鮮度にこだわった商品をそろえているんですが、推薦があつてエントリーさせていただいた結果、(キンメダイとハモ)両方で最高賞を頂くことができました。

糸永 「黄金」というと。

倉橋 食べられる金箔を使っています。見栄えもいいですし、贈答用にたくさん買っていたいです。

糸永 「贅沢至高」と



Drive My Way

ドライブ マイ ウエイ

第2回



第3回は8月18日、
第4回は同25日放送分



ゲストは…

(株)クラハシ
天野 文男 社長
倉橋 彩子 専務

(株)クラハシ
1896年、水産物の荷受けとして福山地方卸売市場内で創業。1971年、同市場が福山市引野町へ移ると同時に同場内へ移転。72年、現社名に変更。2023年には、陸上養殖したシロギスの初出荷にこぎ着けた。

【第3回放送分】

糸永 今回は、仕事の上での選択と挑戦といった話を聞かせていただければと思います。会社の岐路やピンチ、最大の分岐点というところ。お二人でマイクを譲り合っていますね(笑)。

倉橋 会社の創業は明治29(1896)年なんです。今から二〇年前に企業再生を経験しました。バブル期に過剰投資になってしまっており、本業を残して他は全部整理しました。かなり労力がかかったんですが、幸い社員の頑張りでもV字回復しました。

糸永 二〇年たったんですか。

倉橋 来年の3月23日で、丸二〇年です。

糸永 天野社長は就任されて何年になるんですか。

天野 一〇年です。企業再生の後、営業本部長としてずっと営業を見てきました。新しい会社になって二〇年。中心になって働かせていただきました。

糸永 いろいろ大変なこともあったのでは。

天野 五年で二億円を償却しなければいけません。ですから、営業でマイナスは出せないという状況が五年間続きました。その間は社員の昇給もできず、賞与も本場にわずかしかなかったんです。とても苦しかったです。

糸永 二〇年間でよかったと思えることは何ですか。

天野 取引先に助けていただいて、経営がうまくいくようになったので、人とのつながりが本当に大切だと痛感しました。

糸永 (経営再生は水産大手の「ニッスイ」さんが支援してくれたんですが、公にするまでは独自にやってほしいということでした。ある時、五〇〇〇万円の手形が決済できないということがありました。「明日までに何とかしろ」という指示がくるので

すが、そんな額を出してくれる人なんかいない。

仕方ないから広島のカキ屋の社長の所に行ったんですが、「つづれそうな会社に五〇〇〇万円も出すやつはおらん。帰れ」と言われて。でも帰るまでに、五〇〇〇万円が振り込まれていました。

糸永 口ではそう言っていたのに…。

天野 非常にありがたかったですね。

糸永 そういろいろな企業の方とのつながりや助けがあつて、それがV字回復につながったんですね。

天野 その通りです。

糸永 倉橋専務がその頃に感じたことや、これからこんなことをやっていきたいという思いがありましたら。

倉橋 私は当時、(経営していた)当事者の家族という立ち位置で再生の様子を見てきました。大変ではあったけれどお金には代えがたいいろいろなことを学ぶ機会になりました。会社は人と同じように生まれて、何かあればがをしたり、衰退していく。人と同じだと思えば、次のことを考えて健康管理をしたり、未来へのビジョンを持ったりということが大切なこと。会社はそうでないといけないと強く感じているので、元気なうちにいろんな取り組みをして次につなげていきたい。そういう思いを仕事に生かしているという感じです。